

温かい弁当が出た！



し も だ かげ き
志茂田 景樹 (作家)

随想

先日、岡山県の里庄町と
いうところへ日帰り講演に
行った。演題は「輝く未来
に向かって 大人が子ども
に伝えること」で、時間は
2時間。主催者の要望で読
み聞かせの実演も入れるこ
とにしていた。午後1時前
後に会場に到
着、講演は同1
時40分開始なの
でまずは弁当と
いうことにな
る。

でも、その弁
当が見当たらな
い。係の人も弁
当についての言
及はない。普通



満開の桜

3月29日、横浜市
撮影・熊倉綾子

は楽屋に前もって用意され
ている。空きっ腹でやって
帰途の新幹線車内で昼食兼
夕食を取ろうと覚悟した
が、僕の読み聞かせは読む
のではなく手振り身振りを
使って語るのである。

僕の胃袋は消費カロリー
が高く空きっ腹でやってい
ると、ガス欠で動けなくな
る虞おそれがある。声を小さく

して動きをなくして語ろう
か、と思ったとき、弁当が運
ばれてきた。喜び勇んで開
けてまずご飯を食べるとホ
カホカ温かく文字通り炊き
たてである。おかずも作り
たてが多かった。凄い心遣
いだと僕は感激した。講演
先で供きょうされる弁当は早め
に調整されるので、ご飯が
温かいことは奇跡に近い。
心のもったこの弁当の
お陰で2時間という長丁場
の講演&読み聞かせは自然
に熱のこもったものになっ
た。実は用意を忘れて慌て
て手配したのだと明かされ
たが、そんなことは関係な
い。
僕には温かい人の心がい
くつもこもった素晴すばらしい
弁当だった。